

(2) 笠縫東学区

①まちづくりの方向性

①-1. 生活拠点の形成と交通環境の充実

・公共交通の充実や自転車が利用しやすい環境整備等を行うことで、更なる生活利便性の向上を目指します。

笠縫東学区は、学区の南側が市街化区域となっています。北側の市街化調整区域には2010年（平成22年）の人口は約2,300人で、2040年に向けても大きく減少しない見込みであるほか、高齢化率は、現在、将来見通しにおいても相対的に低く、比較的若い世代が居住していることがうかがえます。

また、市街化区域に隣接して一体の市街地を形成することから、医療、高齢者福祉、商業等の徒歩圏人口カバー率が相対的に高く、特に医療・福祉に関しては、ほぼ全ての世帯が徒歩圏に含まれている状況です。一方、基幹的公共交通は、学区の全てがバス停から半径300mの徒歩圏に含まれておらず、補完交通も十分とはいえない状況です。

このような状況から、市民ニーズに応じた公共交通の充実や自転車が利用しやすい環境整備等を行うことで、更なる生活利便性の向上を目指します。

①-2. 地域資源を活かした産業の支援

・健康づくりへの関心の高まり等の社会的ニーズや地域資源の関連性を考慮し、実現性の高い地域振興策を検討します。

葉山川、伊佐々川、中ノ井川沿いの散策やジョギングコースとしての利用、また、ホテルやメダカ的环境学習の場としても活用が期待されます。健幸まちづくりとの関連性を考慮し、実現性の高い地域振興策を検討していくものとします。

地域の現状・課題に係る評価	現状課題に関連する施策の柱と方向性	
高齢化率 ○	1 生活拠点の形成	
医療 ○		
高齢者福祉 ○		
商業 ○		
基幹的公共交通 ×	2 交通環境の充実	重点 取組み
地域資源の活用の可能性 有	3 地域資源を活かした産業の支援	要検討

※ 【高齢化率】 「○」市街化調整区域の平均値より低い項目、「△」市街化調整区域の平均値より高い項目
 【医療・高齢者福祉・商業・基幹的公共交通】 「○」徒歩圏人口カバー率の平均値を上回る項目（平均値と同じ場合を含む）、「△」徒歩圏人口カバー率の平均値を下回る項目、「×」徒歩圏人口カバー率が「0%」の項目
 【地域資源の活用の可能性】 「大」豊富に存在し、活用の可能性が高い。「有」存在するが、活用には検討が必要。

②将来ビジョン

②-1. 交通環境の充実

・生活者のニーズに応じた基幹的・補完公共交通の充実（路線の再編等）

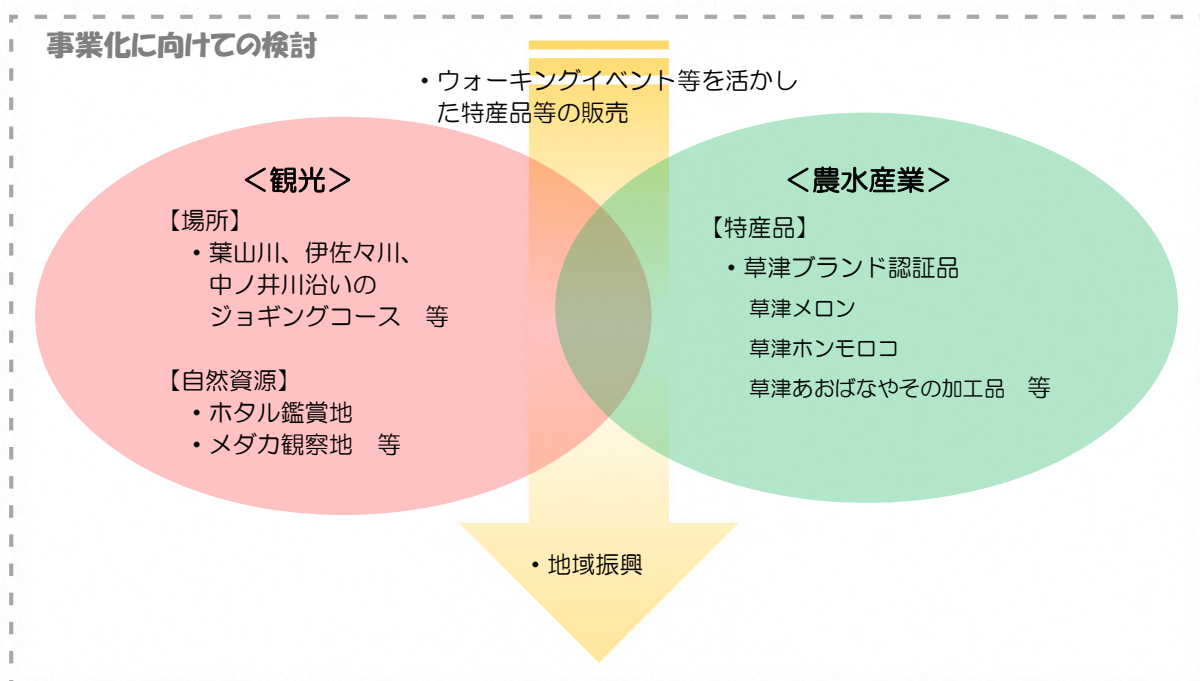
- ・本学区と“まちなか”を結ぶ基幹的公共交通や補完公共交通（まめバス等）を充実します。（生活者のニーズに応じた路線の再編等）
- ・隣接市域（栗東市・守山市）と繋がる広域的なバス路線網の充実を図る取組みを検討します。

・歩行者・自転車交通の安全性向上や利用促進

- ・交通量が多く地域の主要幹線道路である（主）栗東志那中線の整備を県に要望します。
- ・“まちなか”へのアクセス道路の整備を推進します。

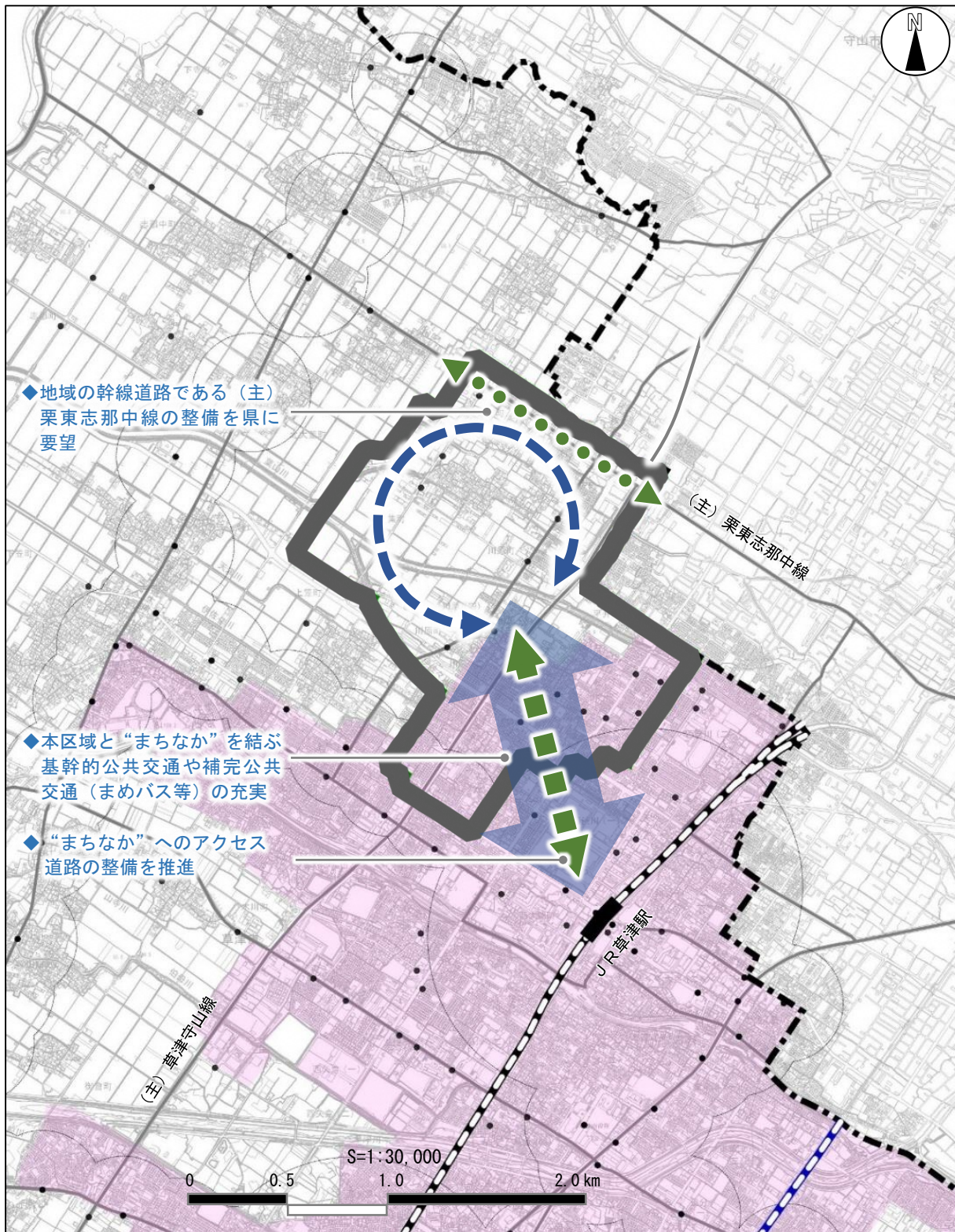
②-2. 地域資源を活かした産業の支援

- ・地域資源（観光、農業）を組み合わせることで地域活力向上を推進します。



※事業化に向けての検討内容は、将来的に普及、拡大されることを期待したものです。地域の中で、今後議論の対象となる可能性のあるものを記載しています。

笠縫東学区 生活と交通に係る検討図



凡 例					
	学区界		バス停		基幹的公共交通の徒歩圏
	行政界		補完公共交通（まめバス等）の充実		
	市街化区域		自動車道等の整備（要望）		
	主要道路		基幹的公共交通の充実		
	鉄道		まちなかにアクセスする自転車道の整備		

(3) 笠縫学区

①まちづくりの方向性

① -1. 生活拠点の形成と交通環境の充実

・公共交通の充実や自転車が利用しやすい環境整備等を行うことで、生活利便性の向上を目指します。

笠縫学区は、西側が琵琶湖に面し、東側の一部が市街化区域に含まれる東西に細長い学区となっていますが、学区内地域の多くが市街化区域の隣接地や浜街道（(主) 大津守山近江八幡線）沿線に一体を成して形成されている状況です。

市街化調整区域内の2010年（平成22年）の人口は約3,800人と相対的に多く、2040年に向けても学区全体では大きく減少しない見込みですが、既存地域では人口は大きく減少する見込みとなっています。また、高齢化率は学区全体で著しく進展し40%を上回る見込みとなっています。

また、生活利便施設の徒歩圏人口カバー率は、種別によって差が大きく、医療や公共交通のサービス水準は相対的に高いものの、商業、福祉のサービス水準は相対的に低い状況で、特に商業に関しては、徒歩圏内に施設が存在しない状況となっています。

このような状況から、笠縫学区では、特に既存地域での今後の高齢化の進展等により交通弱者の増加が懸念される中で、より身近なところで様々な生活サービスが享受できる生活拠点を形成することが必要です。一方で、浜街道からJR草津駅や中心市街地への交通機関等は充実しているため、浜街道までのルートを補完するバスや自転車等でのアクセス利便性を考慮した交通拠点を整備し、公共交通の充実を図ることで、身近なエリアで歩いて暮らせる健幸まちづくりの実現を目指します。

① -2. 地域資源を活かした産業の支援

・「あおばな」等の農業関連資源の付加価値や社会的ニーズを考慮し、「草津あおばな館」を拠点とした実現性の高い地域振興策を検討します。

笠縫学区には、活用が期待される地域資源として、草津ブランドに認証されている「あおばな」をはじめとする農業関連資源が存在しています。また、「あおばな」は、近年、血糖値上昇を緩やかにする効能が注目されています。

「草津あおばな館」は農業振興を図るための利用拡大が見込めることから、地域の拠点としての展開を図り、実現性の高い地域振興策を検討していくものとします。

地域の現状・課題に係る評価

高齢化率	△	
医療	○	→
高齢者福祉	△	
商業	×	
基幹的公共交通	○	→
地域資源の活用の可能性	大	→

現状課題に関連する施策の柱と方向性

1 生活拠点の形成	重点 取組み
2 交通環境の充実	要検討
3 地域資源を活かした産業の支援	重点 取組み

※ 【高齢化率】 「○」市街化調整区域の平均値より低い項目、「△」市街化調整区域の平均値より高い項目
 【医療・高齢者福祉・商業・基幹的公共交通】 「○」徒歩圏人口カバー率の平均値を上回る項目（平均値と同じ場合を含む）、「△」徒歩圏人口カバー率の平均値を下回る項目、「×」徒歩圏人口カバー率が「0%」の項目
 【地域資源の活用の可能性】 「大」豊富に存在し、活用の可能性が高い。「有」存在するが、活用には検討が必要。

②将来ビジョン

②-1. 生活拠点の形成

・ 浜街道沿線に位置する一団の低未利用地を活用した生活拠点の形成

- ・ 学区内の基幹的公共交通路線である浜街道（(主) 大津守山近江八幡線）の沿線に位置し、生活サービス機能等の集積が可能な一団の低未利用地を候補地として、生活拠点の形成を推進します。

・ 生活拠点内への商業、福祉施設等の誘致やアクセスの確保

- ・ 笠縫学区に不足する日常生活サービス機能を確保し、利便性の高い生活環境を創出するため、生活拠点内への商業、福祉施設等の誘致やアクセスの確保を推進します。

②-2. 交通環境の充実

・ 基幹的公共交通と自転車等の乗り継ぎ利便性を高める交通拠点の形成

- ・ 基幹的公共交通軸である浜街道（(主) 大津守山近江八幡線）と（県）下笠大路井線の交差点付近にバスと自転車の乗り継ぎ利便性を高めるサイクル&バスライドの設置を推進します。

・ 生活者のニーズに応じた基幹的公共交通の充実（路線の再編等）

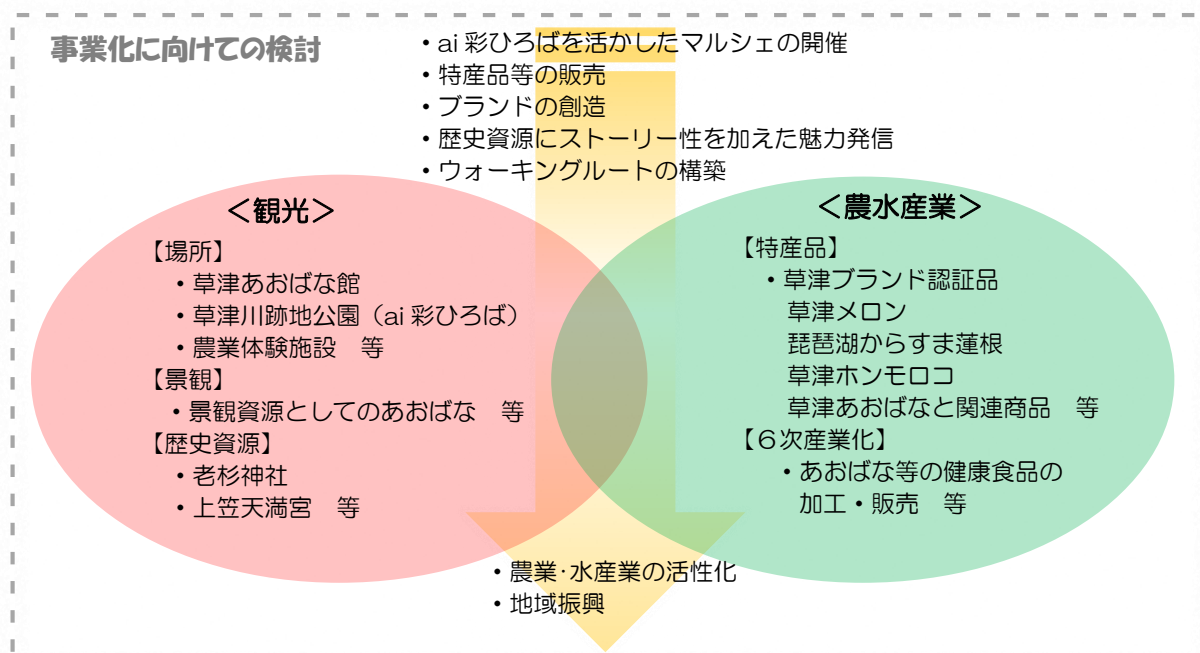
- ・ 本学区と“まちなか”を結ぶ基幹的公共交通を充実します。（生活者のニーズに応じた再編等）

・ 歩行者・自転車交通の安全性向上

- ・ 交通量が多く基幹的公共交通軸にもなっている浜街道（(主) 大津守山近江八幡線）については、歩道の設置を県に要望します。
- ・ “まちなか”へのアクセス道路の整備を推進します。

②-3. 地域資源を活かした産業の支援

- ・ 地域資源（観光、農業）を組み合わせることで地域活力向上を推進します。



※事業化に向けての検討内容は、将来的に普及、拡大されることを期待したものです。地域の中で、今後議論の対象となる可能性のあるものを記載しています。

笠縫学区 生活と交通に係る検討図



凡 例					
	学区界		バス停		生活拠点
	行政界		基幹的公共交通の徒歩圏		交通拠点
	市街化区域		歩道の整備（要望）		
	主要道路		基幹的公共交通の充実		
	鉄道		まちなかへのアクセス道路の整備		